

県立美術館基本構想 答 申

平成22年11月

大分県美術館構想検討委員会

はじめに

県立芸術会館は、美術館機能と舞台付きのホール機能を持つ複合施設として、昭和52年に開館して以来、本県芸術文化の中心施設として重要な役割を担ってきました。

しかしながら、開館以来30余年が経過する中で、施設・設備の老朽化や絵画等の十分な展示スペースが確保できないなど、課題が浮き彫りになり、県民の多様な文化芸術活動等の要請に応えることが難しくなっています。

このような状況を踏まえ、幅広い観点から美術館のあり方を検討するため、各分野の専門家や公募で選ばれた県民代表など12名の委員で構成される「大分県美術館構想検討委員会」が設置されました。

本答申は、委員会の検討事項であった①県立美術館の必要性、②県立美術館に求められる機能、③県立美術館のコンセプト、④県立美術館の整備のあり方、⑤県立美術館の管理運営のあり方などについて、様々な立場の委員の見識を結集して、審議を重ねた内容を取りまとめたものです。

厳しい経済状況の中ではありますが、むしろこういう状況だからこそ、未来を担う子どもたちの豊かな感性や創造性を育む芸術文化の拠点となる新しい美術館が必要であるという結論に至りました。

大分県は、全国に誇れる多様で豊かな自然に恵まれるとともに、美術や音楽など過去から蓄積された芸術文化が脈々と根付いており、「大分スタイル」のどこにもない美術館を生み出すだけのポテンシャルを備えています。

今回の答申で示した美術館のあり方について、さらに具体的に検討され、美術館構想が実現されることを心から願っております。

平成22年11月25日
大分県美術館構想検討委員会
委員長 澄川 喜一

目 次

第1章 県立芸術会館の現状と課題 P 1
1. 全般	
2. 芸術会館の現状	
3. 美術館としての課題	
4. ホール機能(1, 010席)の役割低下	
5. 施設・設備の老朽化	
6. ユニバーサルデザインの対応の遅れ	
7. 立地場所の課題	
第2章 県立美術館の整備の考え方 P 7
1. 県立美術館の必要性	
2. 望ましい対応案	
3. 立地条件の検討	
4. 整備手法	
5. 新たに整備する場合の芸術会館の取扱い	
第3章 県立美術館の機能 P12
1. 規模及び機能とデザインの調和	
2. 展示機能	
3. 収蔵機能	
4. 教育普及機能	
5. 県民が気軽に立ち寄れる憩いの場や交流の場としての機能	
6. ユニバーサルデザインや地球環境への対応	
7. 情報発信機能の充実	
8. 時代の流れに対応できるフレキシビリティ	
第4章 県立美術館のコンセプト P15
1. 県立美術館の役割	
2. 県立美術館のコンセプト	
第5章 県立美術館の運営の考え方 P18
1. 管理運営主体	
2. 館長やスタッフに求められる人物像	
3. 展開する事業活動	
4. 関係機関等との連携のあり方	
資料編(その1) 大分県美術館構想検討委員会の概要 P21
資料編(その2) P25

第1章 県立芸術会館の現状と課題

1 全般

県立芸術会館は、昭和52年当時県内に県立美術館がなく、音楽ホールも不足する中で、展示棟、ホール棟を持つ複合施設として開館し、30余年が経過する中で、多くの課題に直面しています。

まず一つ目に、機能面の脆弱さです。展示スペースが他県平均の約1/3と狭く、常設展示室がない上に移動式パーテーションや照明・空調機能に乏しくなっています。

二つ目に、ホール機能の役割低下です。芸術会館開館後、コンパルホール、ビーコンプラザ、iichiko 総合文化センターが整備され、さらに、大分駅南に新たな複合文化施設の整備も予定されており、その役割は相対的に低下しています。また、プロの興行を断らざるを得ないほど老朽化が著しい状況です。

三つ目に、施設・設備の老朽化です。現在の機能を維持するだけにとどめても、今後5年間で約17億5千万円もの保全経費が必要となります。

以上のような課題を踏まえ、委員会において検討した結果、芸術会館は一つの役割が終わったものと考えています。

2 芸術会館の現状

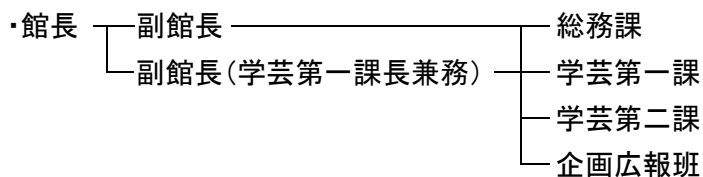
(1) 施設概要

芸術会館は、美術品等の展示機能を持つ展示棟、舞台付きホール機能を有するホール棟及び管理棟からなる複合施設として、昭和52年9月に開館し、平成21年度末までの延べ利用者数は800万人を超えています。

①施設の概要

- ・用地面積 18,924.64㎡
- ・建築面積 4,345.37㎡ 延べ床面積7,301.98㎡
- ・構造 鉄骨・鉄筋コンクリート3階建
- ・展示棟(2階建) 3,108.35㎡(展示室3室計1,234㎡ 収蔵庫4室計685㎡)
- ・ホール棟(3階建) 2,629.79㎡(1,010席 楽屋、リハーサル室、ホワイエ等)
- ・管理棟(3階建) 1,404.9㎡(講堂、会議室等)
- ・駐車場 約200台

②管理体制(非常勤の館長含め20名。うち学芸員6名)



(2) 収蔵品

芸術会館には、購入と寄贈による約4,500点もの収蔵品があり、特に大分県にゆかりのある作家の作品を中心にコレクションしています。これまでの収蔵品の購入金額は38億円を超え、また、寄贈品等の評価額は36億円にも上ります。

これらに加え、寄託品として田能村竹田の重要文化財をはじめ数百点を預かっており、これらも展示が可能となっています。

①日本画(近世)

田能村竹田をはじめ、弟子の高橋草坪、帆足杏雨、平野五岳ら豊後南画を代表する画人たちの書画、資料を体系的に幅広く収蔵するとともに、歌川派をはじめとする浮世絵版画のコレクションも所蔵しています。

②日本画(近代)

大正から昭和の京都日本画壇で活躍した福田平八郎(大分市出身)、日展を舞台に戦後の日本画をリードした高山辰雄(大分市出身)の初期から晩年に至る代表的な作品を収蔵しています。

③洋画

東洋的油絵を求めて大正洋画壇で注目を浴びた片多徳郎(豊後高田市出身)、戦後のパリ美術界で活躍した抽象画家佐藤敬(大分市出身)、わが国抽象絵画のパイオニア荒井龍男(中津市出身)、詩情溢れる作風で人気を博した糸園和三郎(中津市出身)、日本的抽象様式を確立した宇治山哲平(日田市出身)らの代表的作品を収蔵しています。

④彫刻

明治末から大正、昭和期のわが国彫刻界をリードした朝倉文夫(豊後大野市出身)、昭和戦前期に新たな彫刻の可能性を追求した日名子実三(臼杵市出身)らの代表作を所蔵するとともに、戦後の反芸術運動「ネオ・ダダ」を主導した吉村益信(大分市出身)の前衛的作品等も収蔵しています。

⑤工芸

竹工芸の人間国宝・生野祥雲斎(別府市出身)の初期から晩年にかけての代表作に加え、風景文様を巧みに取り込んだ陶芸の河合誓徳(国東市出身)の日展出品作、更に小鹿田焼や日田漆器なども収蔵しています。

⑥大分県関係作家以外の作品

頼山陽の書や葛飾北斎の浮世絵、川合玉堂や前田青邨の日本画、梅原龍三郎、坂本繁二郎の洋画、平櫛田中の木彫などを収蔵する他、外国作家ではW.ターナーやG.ルオーの連作版画、バーナード・リーチが小鹿田で制作した陶器、ロダンやブールデルのブロンズ彫刻なども所蔵しています。

(3) 利用状況と利用者の声

①利用状況

直近5年間の利用状況は表1のとおり、年間利用者数は20万～30万人台前で推移し、そのうち概ね3分の2が展示棟の利用者となっています。また、展示棟、ホール棟ともに主催事業での利用者は少なく、展示棟では共催事業が、ホール棟では貸館が多くを占めるようになっています。

[表1](単位は人数)

年 度	展 示 棟				ホ ー ル 棟			会議室 等	合計
	主催事業	共催事業	貸 館	計	主催事業	貸 館	計		
17	41,208	52,447	50,922	144,577	1,975	73,350	75,325	23,440	243,342
18	40,419	126,157	38,360	204,936	1,223	69,800	71,023	30,900	306,859
19	48,048	134,151	40,659	222,858	2,948	72,450	75,398	25,367	323,623
20	20,085	106,377	42,919	169,381	1,670	68,580	70,250	23,842	263,473
21	18,646	84,516	35,491	138,653	2,170	54,000	56,170	23,365	218,188

②利用者の声（H20～21年度 芸術会館利用者アンケートより複数意見のもの）

[施設に関すること]

- ・照明がガラスに反射して見づらかった。
- ・弱視者向けに照度をあげて欲しい。
- ・温度が高すぎて暑かった。クーラーは使用できないのか。

[運営に関すること]

- ・順路をわかりやすくして欲しい。
- ・案内(説明)の文字が小さすぎるので、もっと大きくして欲しい。
- ・開館時間を延ばして欲しい。
- ・大分の芸術を入館しやすい金額でたくさん紹介して欲しい。

[展示に関すること]

- ・もう少し多数の作品を見たかった。
- ・芸館所蔵品展を見たい。エジプト展より、よほどその方が良い。
- ・高山辰雄・福田平八郎・朝倉文夫など大分県出身の画家・彫刻家・工芸家・現代作家など個々の作品を多く観たい。
- ・大分県内の作家(高山辰雄や福田平八郎など)の部屋があって、いつも開いていて平常展で見られるようになったら嬉しい。

3 美術館としての課題

(1) 展示スペースが狭い

芸術会館の展示室面積は、下表のとおり狭く、常設展示室がないという致命的な課題を抱えるとともに、大規模展覧会の開催に制約がある等展示機能が十分ではありません。

項目	展示室合計面積 ()内は対芸館比	常設展示室	企画展示室	貸展示室
芸術会館	1, 234㎡(100.0%)	区分無し		
都道府県平均(A)	3, 967㎡(321.5%)	1, 910㎡	1, 353㎡	705㎡
79施設平均(B)	2, 345㎡(190.0%)	1, 121㎡	804㎡	420㎡
1県1施設平均(C)	2, 889㎡(234.1%)	1, 395㎡	1, 010㎡	484㎡
平成以降施設平均(D)	2, 924㎡(237.0%)	1, 403㎡	1, 049㎡	472㎡

注1:Aは全ての県立美術館を都道府県数で割った平均

注2:Bは芸術会館を除く都道府県立79施設の平均

注3:Cは都道府県に県立施設が一つしかない21都道府県の平均(芸術会館を除く)

注4:DはCのうち、平成以降に新築又は増築された施設の平均

(2) 展示スペースの機能性に乏しい

3室に分かれた展示室のレイアウトが悪く、スムーズな順路が確保しにくい状況です。移動式パーテーションがないことから展示方法が限定されています。

(3) 空調や照明の機能が不十分

美術品保護のための温湿度の管理が十分にできず、また、調光機能もないなど空調機能、照明機能いずれも求められる水準にありません。

(4) 教育普及機能等の不足

講座室、実習室、美術図書室、情報コーナーや視聴覚施設など教育普及関係設備が不足しています。

現代美術に対応した映像施設等への対応が不足しています。

(5) 収蔵庫の機能不足

収蔵庫のスペースにゆとりがありません。

大地震に備えた収蔵庫内の免震措置が講じられていません。

作品等の搬出入にあたって、十分なトラックヤードと搬出入口が確保されていません。

バックヤードのセキュリティが不十分な状況です。

(6) ソフト面の課題

予算面の制約などから調査研究を活かした情報発信型の企画展や、話題性の高い国内巡回展の誘致など、県民の期待に十分に答えられる展覧会事業が実施できておらず、加えて、鑑賞教育プログラムの企画・展開などにも十分には取り組めていません。

(7) 美術館としての個性が不足

ロビー空間にゆとりや風格がありません。

ミュージアムショップがありません。

施設内にカフェやレストランがありません(レストランの入口は別)。

4 ホール機能(1,010席)の役割低下

昭和60年代以降、大分市内にはコンパルホールや iichiko総合文化センター等が、更に別府市内には、ビーコンプラザが開館したことから、その役割は相対的に低下してきています。

平成25年度には、大分市による大分駅南への複合文化交流施設の開館が予定されていることから、芸術会館のホールの役割は更に低下することとなります。

開館	施設名	ホール名	席数	主な利用方法
S61	コンパルホール	文化ホール	500	講演会、集会
		多目的ホール	400	会議、研修会
H2	能楽堂		568	能楽
H7	ビーコンプラザ	コンベンションホール	8,000	大規模会議、ライブ
		フィルハーモニアホール	1,106	コンサート、演劇
H10	iichiko総合文化センター	iichikoグランシアタ	1,966	コンサート、演劇、オペラ
		iichiko音の泉ホール	710	コンサート、講演会
	合計		13,250	
	大分市複合文化交流施設 (予定)	大ホール	1,200	多目的
		小ホール	200	演劇・コンサート

5 施設・設備の老朽化

6ページの表のとおり、現施設を継続利用するためには、舞台音響、照明、空調設備等の維持補修工事の必要経費が今後5年間で約17億5千万円かかる見込みです。

備品の中には製造中止になっているものもあり、故障や耐用年数の経過に伴う部品等の交換ができず、使用不能となるリスクを抱えており、現在老朽化を理由にプロの興行を断っている状況も踏まえて、施設の存廃について早急に結論を出す必要があります。

	改修内容	金額は概算の見込額で単位は千円					棟別
		H22	H23	H24	H25	H26	
管 理 棟	高圧受電設備改修					110,000	161,500
	直流電源装置改修		15,200				
	屋上シート防水改修					15,300	
	石綿除去工事(機械室)	21,000					
ホ ル 棟	高圧受電設備改修					24,000	935,963
	舞台音響設備改修	8,263	142,100				
	舞台照明(調光設備)改修	273,000					
	舞台照明(器具負荷設備)改修			188,000			
	舞台機構改修	26,400	32,900	30,600	119,000		
	屋上シート防水改修			16,700			
	石綿除去工事		75,000				
展 示 棟	電話設備改修				402	33	69,045
	パッケージエアコン改修	4,950					
	屋上シート防水改修				4,660		
	石綿除去工事	59,000					
共 用 部 分	非常照明・誘導灯設備改修	18,360					580,040
	電気時計設備改修					3,340	
	給排水設備改修				3,868	38,144	
	空調設備全面改修		200,000	150,000	150,000		
	排気ファン類改修					14,658	
	屋上シート防水改修				1,670		
	計	410,973	465,200	385,300	279,600	205,475	1,746,548

6 ユニバーサルデザインの対応の遅れ

車いすでの利用が容易でないことをはじめユニバーサルデザインに十分に対応できておらず、特に高齢者や障がい者の利用に課題を抱えています。

7 立地場所の課題

大分市中心部からやや離れ自家用車を所有しない者にとっては場所が不便です。

公共交通機関のアクセスが十分ではない上に、駐車場も十分ではありません。

『洪水ハザードマップ』(大分市作成)で水没危険地域に指定されています。

展示棟に隣接して九州電力(株)の高圧鉄塔があるため、美術館としての景観を損なっていると同時に、万が一の場合に収蔵品の安全が懸念されています。

周囲に賑わいのある場所がなく、人が集まりやすい仕組みができていません。

JR牧駅や大分バスの芸術会館入口停留場が近隣にあるものの、電車やバスの便数が多いとは言えず、交通の便が十分ではありません。

第2章 県立美術館の整備の考え方

1 県立美術館の必要性

前述のとおり、芸術会館の現状と課題を踏まえると、以下の理由から新たな美術館が必要と考えます。

(1) 現芸術会館では県立美術館としての役割が果たせない

①施設・設備の老朽化への対応

現芸術会館は築後30余年を経過し、今後、5年間で約17億5千万円もの保全コストが見込まれるなど設備等の老朽化やホール棟の機能低下等の問題から、そのあり方を根本的に検討すべき時期を迎えています。当該見直しに併せ、本来、県立美術館として保有すべき展示機能の充実等を図る必要があります。

②展示スペースの拡充

全国的にはもちろんのこと、本県と同程度の経済規模の県と比較しても展示スペースが1/3であることなどから、現状の芸術会館は県立美術館として十分な施設とは言い難い状況です。

③常設展示室の設置

県民の財産として4,500点、購入金額38億円、寄贈等36億円、合わせて70億円を超える収蔵品を抱えるとともに、重要文化財2点をはじめ数百点に上る寄託品を預かっているにも関わらず、その一部も常設展示できないという大きな課題を解決する必要があります。

④ソフト面の充実

国内を巡回するような世界的な名画展等を、芸術会館の展示スペースの狭さ等の施設面や予算面の制約等から開催できないなど、県民が質の高い美術に触れる機会を十分には提供ができていません。

⑤教育普及機能等の充実

心豊かな人生を過ごす上で芸術は欠かすことのできないものであり、大分県の未来を担う子どもたちが、美術に触れる機会を常に確保し、子どもたちが美術を楽しむきっかけとなるような様々なプログラムを展開することにより、子どもたちの情操教育を進め、豊かな感性と創造性を育むとともに、子育てを行う親の精神的な安らぎや喜びをもたらす、その満足感を高める必要があります。

(2) 本県出身の美術関係者のポテンシャルは高く、その特性を将来につなげていく

これまでの美術関係の人材輩出や現在の県出身の美術関係者の状況等を勘案した場合、

本県美術関係者のポテンシャルは極めて高く、そのような県出身者の持つ良好な特性を、将来にわたり、しっかりと守り育てていく必要があります。また、本格的な美術館の建設は、芸術会館建設以前からの大分県美術関係者の悲願です。

(3) 地域活性化や観光面での大きな効果が期待される

県民が誇れる文化施設として美術館は、まちづくりの顔となる中核的な公共施設として県民の利用はもとより、県外からの来訪者にも楽しんでもらえる新たな観光資源ともなり得ます。

(4) 大分市美術館では代替は困難

大分市出身者を中心に約2,000点、40億円を超える貴重な収蔵品を抱える大分市美術館(常設室1,020㎡。企画室860㎡)に、県収蔵品の収蔵・常設などの県立美術館の代替機能を期待することは、物理的に困難と思われる。

2 望ましい対応案

今後の対応については以下の3つのパターンを検討しましたが、多くの人たちが利用しやすく、周辺環境にも調和する、芸術会館とは別の場所に新たな県立美術館を整備した方がよいという結論に至りました。

(1) 別の場所に美術館整備

芸術会館を廃止し、別の場所に美術館を整備します。課題としては、リフォームと比較すると初期投資が必要、用地の確保、芸術会館廃止に伴う対応などが挙げられます。しかしながら、この場合、あらゆる面で選択肢が広く自由度が高くなるとともに、新たな公共施設としてまちづくりの顔となります。多くの人たちが利用しやすく、周辺環境にも調和する新たな県立美術館を整備した方がよいと思います。

(2) 芸術会館のリフォーム

芸術会館のホール棟を展示棟にリフォームするなど美術館機能に特化します。初期投資は少ないものの、芸術会館展示棟の機能面の問題が解決しない、芸術会館展示棟の老朽化への対応が引き続き必要となる、立地環境が変わらないなど、多くの課題が残ります。そのため、リフォームには限界があると捉えています。

(3) 現在地に美術館を整備

老朽化の進む芸術会館全体を解体し、同地に美術館を整備します。用地確保の必要が無く、新たな公共施設としてまちの顔となると考えられます。問題点としては、2年間程度の休館期間とその間の収蔵品の保管問題が発生します。また、立地環境が変わらないままでは、人が集まりやすい仕組みができていないという根本的な問題が課題として残ります。リフォームも含めて現在地での新しい県立美術館の構想は、避けた方がよいと思い

ます。

3 立地条件の検討

別の場所に美術館を整備する場合、立地場所は次のような条件を考慮する必要があります。

(1) まちづくりの観点

用地の取得や借上げが現実に可能か、コストがかかり過ぎないか、基盤整備との連携や地域再生などまちづくりの観点からの効果が期待できるかということについても考慮することが望まれ、これらを総合的に比較検討を行い選定する必要があります。

(2) 芸術文化振興拠点や教育機関等との連携

県立美術館には、本県の芸術文化の中核施設としての役割を果たすことが期待されています。そのため、県内各地の文化施設や県立芸術文化短期大学をはじめとした県内の大学等との連携を図る上で、ネットワークの中心となる場所であることが望まれます。

(3) 多くの県民が利用しやすい場所

公共交通機関や幹線道路及び周辺道路など、高いアクセス性を備えた場所であることが望ましいと考えます。周辺に他の集客施設がある場合には、気軽にちょっと素敵な空間で時間を過ごしてみようというお客様が増え、より高い相乗効果が期待できます。駐車スペースについては、共通の駐車券など発行して周辺の駐車場を利用するということも考えられます。

(4) 本県を訪れる観光客にも利用しやすいこと

これまで収集してきた大分出身の芸術家の優れた作品などを広く紹介するため、県内のみならず県外や国外から訪れる観光客等にとっても立ち寄りやすい場所であることが望まれます。大型観光バスなどの駐車スペースも必要になるかもしれません。

(5) 美術館の目指す方向性と調和の取れた場所

美術館に望まれることは、日常と違った空間に出会えることです。そういう空間に日常的に気軽に来館できる場所であることが望まれます。市街地に近く緑あふれる場所に立地できれば、県民の感性も育まれ、県民の財産である収蔵作品もさらに輝きを増してきます。また、留学生比率日本一という特性を活かし、アジアへ向けて発信することも大切です。

(6) 建設可能な用地の検討

芸術会館は、築後30年以上が経過し老朽化が著しく、設備の機能不全のリスクを抱え

る中、今後5年間で約17億5千万円の維持補修費が見込まれるなど、施設の存続について早急に結論を出す必要があります。新しく美術館を整備する場合にはその建設は急務であり、円滑な整備を進める上で、用地取得の必要のない県有地、もしくは、用地取得が容易であり、直ちに工事着手できる場所であることが求められます。

4 整備手法

よい建築の実現のためには、最適な設計者の選定が必要です。設計者は、プロポーザル方式とコンペ方式の両者の長所を取り入れた方法で選定することが望ましいと考えます。

プロポーザル方式は技術提案をするもので、1級建築士の数や過去の同等の工事実績などを点数化されて評価されるため、実績や組織力のある設計者を選定できますが、大手設計事務所が比較的有利となります。その一方で、次世代のための美術館建設には、次世代の若手建築家に設計のチャンスを与え、若いフレッシュな才能を試してみようという意味では、コンペ方式という選択もあります。施主である県と十分な意思疎通を持ち、県民の思いに十分に耳を傾け、施工後の責任も果たせる設計者を選定することが大事です。

(1) プロポーザル方式

設計体制、実施方法、これまでの実績、プロジェクトに対する考え方などの技術提案書を求め「設計者」を選びます。具体的な設計提案は求めず、組織と人を選ぶことを目的とします。技術提案書作成に必要な時間と費用が軽減されます。長所としては、コンペに比べると発注者が詳細な設計条件を設定しなくて良い、設計者選定後の設計作業に利用者の意見を取り入れる自由度が高いなどが上げられます。短所としては、実績や人員の多い大手組織事務所が比較的有利となる、主に書面による技術提案書の評価であるためデザイン能力の評価がしにくい、といった点が上げられます。

(2) コンペ方式

「設計案」を選び、その提案者を設計者に指名します。設計条件などをあらかじめ発注者が提示します。具体的な「設計提案」作成に必要な時間と応分の費用を発注者が用意します。長所としては、具体的な設計提案が提出されるので、設計者のデザイン能力を評価できる、中小設計事務所から大手事務所まで幅広い設計者の参加機会が得られるなどが上げられます。短所としては、発注者が利用者の意見を設計条件に取り入れるなど、コンペの事前準備に時間が必要となるといった点が上げられます。

5 新たに整備する場合の芸術会館の取扱い

新たな場所に美術館を整備する場合には、現芸術会館の取扱いについて、大きく分けて県立美術館が開館するまでの期間と開館後の取扱いを検討する必要があります。

(1) 新しい美術館が開館するまでの期間

最低限必要な補修工事を行い、使用を継続することが望ましいと考えます。新しい美術館が開館するまでは、県立施設として唯一の美術展示機能と収蔵品を保管する役割を果たしてもらいます。ただし、老朽化の著しいホール棟については、その役割も低下しており、展示棟と切り離し、その取扱いを早急に検討することが必要です。

(2) 開館後の取扱い

施設・設備の老朽化の状況によりますが、用途を協議の上改修を行い施設等を活用する、更地にして他の公共用地として活用する、財産の有効活用のため売却することなどが想定されます。施設・設備の老朽化の状態を調査の上、関係部署において今後の取扱いについて本格的な検討が必要であると考えます。

第3章 県立美術館の機能

1 規模及び機能とデザインの調和

美術館の規模は先進事例の状況などを踏まえ、延べ床面積は少なくとも11,000㎡程度が必要と考えます。また、建築の善しあしは、美術館の評価に大きく関係することから、周囲の街と調和の取れた魅力ある外観を持ちながら、美術館としての個性と機能性を備えた親しみのある建物、来館者がワクワクするような仕掛けのある建物となるような配慮が求められます。

【延べ床面積】

芸館(現状)7,302㎡(ホール棟除き4,672㎡)

1県1施設平均11,012㎡ 平成以降平均11,551㎡

2 展示機能

(1) 展示スペース

幅広い美術芸術との出会いは、大分県の未来を担う子どもたちの豊かな感性と創造性を育むとともに、多くの人々に安らぎや感動をもたらします。県民が質の高い本物の芸術文化に触れる機会を充実するためには、展示スペースを十分に確保する必要があります。先進事例の状況などを踏まえ、少なくとも3,000㎡程度が必要と考えます。

芸館(現状)1,234㎡

1県1施設平均2,975㎡ 平成以降平均3,046㎡

①常設展示スペース

芸術会館には、購入と寄贈による約4,500点もの収蔵品があります。特に、田能村竹田を中心とする近世絵画、福田平八郎や高山辰雄など、大分県にゆかりの充実したコレクションを所蔵しています。また、寄託品として田能村竹田の重要文化財をはじめ展示可能な作品を数百点を預かっており、これら県民の貴重な財産である収蔵品の一部を常時展示することができる専用スペースが必要です。

②企画展示スペース

話題性の高い国内巡回展などが開催可能な企画展示スペースが必要です。観覧者が中に入ったときに日常から切り離されて、特別な空間に入るという期待感、ワクワク感を感じるとともに、あらゆる形態・大きさの作品にも対応できる空間を確保することも必要です。これは、常設展示スペースにもあてはまります。

③ 県民ギャラリーとしてのスペース

多くの美術関係者が待ち望む県民ギャラリーとして、グループ展やワークショップなどの成果発表ができる貸し出し可能なスペースが必要です。県民ギャラリーに隣接して、主催者控室や少人数のレクチャースペース等があればさらに機能的になります。

(2) その他効果的な展示に必要な設備

展示室内を24時間一定の温湿度に管理できる空調システム、調光機能のついた照明、可動式壁面(パーテーション)などは、最近建設された美術館に標準的に整備されており、展示室の機能として備えておくべきだと考えます。低反射ガラスを用いたウォールケースを設置する美術館が増えており、導入が望ましいと考えます。

3 収蔵機能

収蔵品を適切に管理できる十分なスペースを確保するとともに、耐震・免震機能や十分なセキュリティ機能を持つことが必要です。文化庁文化財保護部が示した「文化財公開施設の計画に関する指針」によると、『収蔵庫の床面積は、展示室の床面積の半分を目安とするが将来を見越して十分なスペースをとることが望ましい』とされています。

また、本県の特長である豊後南画、竹工芸品等の収蔵品の保管には、湿度調整が可能など独立した収蔵庫が望ましいことなどを考慮すると、他県平均よりも大きくなりますが、収蔵庫にはおおよそ1,500㎡程度が必要と考えます。さらに、収蔵庫周辺には、梱包材の収納庫や荷解き場、資料を写真撮影するための場所を確保するとともに、作品等の搬出入にあたって、十分なトラックヤードと搬出入口を確保する必要があります。

芸館(現状)685㎡

1県1施設平均1,039㎡ 平成以降平均1,039㎡

4 教育普及機能

子どもたちの芸術との出会いの場、高齢者等県民の生涯学習の場として、多彩な活動が展開できる機能を確保する必要があります。具体的には、ワークショップや造形活動など様々な活動の展開を可能とするアトリエや講堂・会議室、美術に関する図書コーナーの設置などが挙げられます。図書コーナーでは、年報や紀要、図録などの発行、販売の検討も必要です。

5 県民が気軽に立ち寄れる憩いの場や交流の場としての機能

さまざまな人々の交流の場としてゆったりとくつろぐことができるロビー等のオープンスペースやカフェ等の憩いの空間が必要です。また、ミュージアムショップなども設置することが望ましいと考えます。

6 ユニバーサルデザインや地球環境への対応

多様な人々が利用する施設として、ユニバーサルデザインの考え方を徹底的に取り入れることが望ましいと考えます。また、保全改修を計画的に実施し、耐久性を備えるとともに、ランニングコストにも十分に配慮するなど、地球環境に優しい施設を目指すことが望まれます。

7 情報発信機能の充実

ホームページを活用し、収蔵品情報の検索など、いわゆるバーチャル美術館のような機能や県立美術館にふさわしい情報発信機能を持つことが望まれます。資料のデータベース化を進めるなど、多様な情報通信技術・メディアを活用して積極的な情報発信が望まれます。

8 時代の流れに対応できるフレキシビリティ

県民の様々なニーズや芸術の表現方法の変化などにも対応できるフレキシビリティがこれからの美術館には求められます。

第4章 県立美術館のコンセプト

1 県立美術館の役割

芸術文化は人生に多くの恵沢をもたらすものです。人々の感性に訴え、深い感動を与えて、人々を様々な活動に導き、その文化のエネルギーが社会経済に影響を与え、新たな活力をもたらします。快適で心豊かに暮らせる社会の形成に県立美術館の果たす役割は極めて大きいと考えています。

また、大分県は、「子どもたちの挑戦や自己実現を支える大分県」づくりを目指しており、子どもたちの豊かな感性や創造性を育むための質の高い芸術文化に触れる機会を確保する役割を担っていくことが県立美術館には求められます。

さらに、大分県の特長として、文化勲章者を数多く輩出してきた高い美術ポテンシャルを将来にわたりしっかり守り育てていく役割も県立美術館には求められます。

このような観点を踏まえ、県民の芸術文化活動の拠点を担う新しい美術館が必要であるとの結論に至りました。

(1) 県の芸術文化の中心（センター機能）拠点として

これまで収集してきた多くの質の高い収蔵品があり、大分の美術を紹介する県立美術館として、県民に親しまれ、大分の顔となり、大分の美術を牽引していく場としての役割を担います。

(2) 明日の大分を築く心豊かな人づくりのための拠点として

大分県の明日を担う子どもたちの豊かな感性と創造性を育てていくためには、芸術文化の果たす役割は極めて大きいと思います。そのため、子どもたちの美術に触れる機会を確保するとともに、豊かな感性と創造性を育む夢のある楽しい場としての役割を果たしていきます。

(3) 本県出身者の特性を将来につなげていくための拠点として

文化勲章受章者を多く輩出し、「高山辰雄賞ジュニア美術展」には県内の幼・保・小・中・高・特別支援の児童、生徒を対象に 11 万点を超える応募が寄せられるなど、本県の美術ポテンシャルは高く、そのような県出身者の持つ良好な特性を将来にわたり、しっかりと守り育てていく場としての役割を果たしていきます。

(4) 地域活性化やまちづくりの顔となる中核的な拠点として

地域の文化力を高めるとともに、地域の活性化に役立つ県民に密着した場所としての役割を果たしていきます。また、優れた芸術を県内のみならず、県外、国外へも発信する情報・交流拠点としての役割も果たしていきます。

2 県立美術館のコンセプト

大分らしい美術館「自分たちの応接間」

大分には美術も音楽も過去から蓄積されたものがあります。「大分スタイル」のどこにもない美術館を生み出すだけのポテンシャルを備えています。地域に密着し、県民一人一人が「自分たちの応接間」だと思っていただけるような美術館を目指します。

県民に美術館に親しんでもらうためには、美術館が生活の延長にあり誰もが利用しやすい場所であり、その一方で、体験する誰もが普段の生活とは異なった楽しみや感動を得ることができる場所であることが求められます。そこには、自分たちが参加できる企画もあれば、見に来る、聞きに来る参加の仕方や自分たちが何かを手伝う参加もあります。いろんな参加のかたちの中で、相互に作用する活動が生まれ、伝統から現代への流れを感じ、五感が磨かれ、全ての年齢層の県民が美術館とともに成長し、大分らしい美術館を作り上げていきます。

①「成長する」美術館

子どもたちは柔らかいスポンジのように素直に何でも吸収していきます。その子どもたちに創造の楽しさを経験してもらう場所としての役割を果たし、次代を担う大分の子どもたちの感性や創造性を育みます。また、高齢者を対象にした企画を実施するなど、県民の生涯教育の場所としての役割を果たします。県立美術館も一つの大きなスポンジのように、いろんなことを吸収し、次代を担う大分の子どもたちや県民と一緒に成長していきます。

②「四季を感じる」美術館

大分県には全国に誇れる多様で豊かな自然があります。その豊かな自然に囲まれて、県内には美術館や文化施設が各地に点在します。県内の美術館や文化施設を組み合わせれば、それは「芸術の旅」となります。旅の途中で見る風景は、高山辰雄や福田平八郎などの芸術家を輩出し、題材にされてきた大分の自然であり、同時に自然のキャンバスに描かれた作品でもあります。県立美術館を中心に水の波紋のようにネットワークを拡げ、大分の四季を感じることのできる美術館を目指します。

③「五感を刺激する」美術館

美術館の来館者は自分の世界が日常から切り離されて、そこで特別の世界、異空間に入っていきというような期待感・ワクワク感を膨らませて訪れます。県民が美術館に足を運び、絵画や彫刻を観る。それが音楽と結び付く場合もあるし、映像としてつながっていくような可能性があります。人間の五感とは芸術全般を互いに感じ合うほどに繊細で、それでいてキャパシティの大きいものです。県立美術館は常に訪れる人の五感を刺激する場所であり続けることを目指します。

県立美術館のコンセプト

大分らしい美術館

「大分スタイル」のどこにもない地域の美術館
県民が「自分たちの応接間」と思える美術館

「成長する」美術館

相互に作用する活動が生まれる美術館

「四季を感じる」美術館

「五感を刺激する」美術館

第5章 県立美術館の運営の考え方

1 管理運営主体

管理運営のあり方としては、県直営や指定管理者制度などの形態があります。指定管理者制度を導入している先進県の状況を見ると、全ての業務を委託している美術館もあれば、管理運営・広報の部門は指定管理者制度を導入し、学芸（企画展示）部門は県直営のまま残している美術館もあります。

いずれの運営形態をとるにしても、メリット・デメリットが存在することから、長期的視点に立って、コンセプトに沿った最も効果的で効率的な運営方法を慎重に検討する必要があります。

2 館長やスタッフに求められる人物像

（1）館長

基本的に、館長は県内外に幅広い人脈があり、強いリーダーシップと経営感覚を持ち、美術に対する基本的な知識とあらゆる芸術に対する感性を持った方、大分の地から若い世代をはじめとして美術文化を育てようと努力する方、地域を巻き込んで美術を広めるための企画力を有する方が望ましいと考えます。指導力を持ち、美術館スタッフや県民と積極的に関わり、大分県の美術のポテンシャルを引き出し発信できる人物が望まれます。

（2）スタッフ

スタッフには、「学芸」、「企画」、「教育普及」、「広報」など館運営の基本となる分野毎に、相応の知識と経験を有するとともに、しっかりとした専門を持ちつつも偏りすぎず、様々な県民のニーズに応えられる柔軟性を持った人物が望まれます。表現者としての経験のある学芸員、教育者として才覚のある学芸員を強化し、大分の美術を世界に発信するとともに若い才能を育てることが必要です。

3 展開する事業活動

コンセプトに基づいた計画的な資料の収集や調査・研究を行うとともに、展示や教育普及活動のための方針を定め、所蔵資料の特色を生かして、計画的に常設展示を行うなど、これまでの活動をさらに充実させ、県民の応接間として成長させていくことが、新しい美術館には求められます。

コンセプトを具象化するイメージ例の1つとして、大分を代表する地域資源の「竹」が考えられます。竹工芸の人間国宝生野祥雲齋の作品をはじめ、田能村竹田に代表される豊後南画など、竹にちなんだ作品を芸術会館は数多く収蔵しています。大分にとってなじみのある「竹」をテーマとした作品の収集を新しい美術館の収集方針の一つに据えることが考えられます。

また、一気に伸びていく「竹」のイメージや、地下茎がよく横に這い、随所から地上に茎を伸ばしていく「竹林」のイメージを、県内の小・中・高校、大学、市町村、文化芸術団体等と連携して地域に密着した運営を展開し、成長していく美術館の姿と重ね合わせることも考えられます。

(1) 資料の収集と保管、活用

計画的な資料の収集を行うとともに、収集した資料は、常に安全で良好な収蔵環境のもとで保管し、貴重な財産として次世代に引き継いでいきます。収蔵資料の目録等を整備し、多くの人々が資料を活用できるようにし、収蔵資料を効果的に活用するために他館との間での資料の貸借を積極的に進めていく必要があります。

(2) 調査・研究

調査・研究の成果を地域社会はもとより幅広く人々の活動や学術的な研究に役立てます。美術館の機能向上を図るため、展示や教育普及活動とともに管理運営などに関する調査・研究も積極的に行う必要があります。

(3) 展示、教育普及活動

展示や教育普及活動のための方針を定め、所蔵資料の特色を生かして、計画的に常設展示を行います。特別展、企画展を開催するにあたっては、社会状況や県民のニーズを考慮します。展示については、学芸員やボランティアによる展示解説を実施するなど、誰もがわかりやすく楽しむことができるように配慮するとともに、外国人、高齢者、障がいのある方等の利用にも配慮します。展示や所蔵資料に関連した講演会や講座などを積極的に実施し、県民の多様な学習活動を支援するとともに、県立芸術文化短期大学をはじめとした県内の大学やNPO法人大分県芸術文化振興会議等と協力して、子どもたちの心をとらえて離さない、魅力あるプログラム作りを積極的に進めていく必要があります。

(4) 県民の参画

利用者や関係者で構成する協議会を設置し県民に運営に参画してもらうとともに、アンケート調査などを実施し利用者のニーズや満足度を把握するなど、県民の意見を美術館運営に反映させる仕組みを構築する必要があります。館運営を支える「友の会」などのパートナー組織を立ち上げることも考えられます。県民の皆さんには、県立美術館のことを「自分たちの応接間」として、館運営などに積極的に参画してもらうことが大切です。

(5) 若手芸術家の育成

大分県の持つ美術ポテンシャルを持続的に開花させ続けていくため、芸術系大学である県立芸術文化短期大学と連携を図りながら、若手芸術家の育成や情報発信の仕組みづくりを構築する必要があります。具体的には、県出身若しくは県内在住の若手アーティストを対象としたコンクール展の開催、美術館のワークショップやレジデンス事業などの普及事業の講師やサポーターとして参加してもらうことなどが考えられます。

4 関係機関等との連携のあり方

(1) 教育機関との連携

子どもの頃から芸術に触れ、関心を持つ機会をつくることは極めて重要であることから、特に、学校との連携事業に力を入れる必要があります。また、地域の子どもの芸術に触れる機会に格差のないように、学芸員を学校等へ派遣したり資料等を提供することにより、地域の小・中・高生の感性や創造性を育むことが必要です。さらに、県内の大学との連携を図り、子どもたちが創造の楽しさを経験する場としての役割を果たすことが求められます。

(2) 市町村との連携

市町村との情報交換などを積極的に行うためのネットワークを、県立美術館を中心に構築する必要があります。具体的には、芸術会館が所蔵する作品を県内各地に点在する市町村立の文化施設で展示する地域巡回展の開催、学芸員が講師となり市町村文化担当者の研修や公民館文化サークルを対象とした講座に赴くといった取組が考えられます。特に、大分市美術館については、所蔵品の貸借や共同調査などで相互に協力できる部分の連携を十分考慮する必要があります。

(3) ボランティアの育成・連携

地域のボランティア・リーダーを育成・配置することにより、よりきめ細かで中身の濃い教育普及事業が展開できるようになることから、県内全域をカバーできるようなボランティアネットワークを構築し、連携を進めていく必要があります。また、学生ボランティアを募集して出張美術教室やワークショップなどを実施し、大学ではこのような活動実績を単位化するなど、ボランティアの観点からも県内の大学と積極的に連携を図る必要があります。

(4) 企業や商店街等地域との連携

企業や商店街をはじめとした地域とのつながりを大切に、商店街の空き店舗や通りを利用した若手芸術家やアマチュアの展覧会・個展の開催や、商店街で買い物をしたら美術館の割引券がもらえたり、逆に美術館を利用することで商店街共通の駐車料金のサービスを受けられるといった、様々な面で地域に密着した取組を推進していく必要があります。

資 料 編

(その1)

— 大分県美術館構想検討委員会の概要 —

大分県美術館構想検討委員会設置要綱

(目的)

第1条 県立芸術会館の現状を踏まえ、幅広い観点から県立美術館のあり方を検討するため、「大分県美術館構想検討委員会」(以下「検討委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討委員会は、以下の項目を中心に検討を行い、県立美術館のあり方について基本構想を取りまとめ、知事へ答申するものとする。

- (1) 県立美術館の必要性
- (2) 県立美術館のコンセプト
- (3) 県立美術館に求められる機能
- (4) 県立美術館の整備のあり方
- (5) 県立美術館の管理運営のあり方

(組織)

第3条 検討委員会は、知事が委嘱する別表に掲げる関係分野の専門家及び一般公募者を委員とする。

- 2 検討委員会に委員長及び副委員長を置く。
- 3 委員長及び副委員長は、委員の互選によって選任する。
- 4 委員長は検討委員会を代表する。
- 5 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故等があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 検討委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員長は、必要に応じて、委員以外の者を出席させることができる。

(設置期間)

第5条 検討委員会の設置期間は、検討委員会が設置された日から1年間とする。但し、必要に応じて、延長することができる。

(事務局)

第6条 検討委員会の事務局を企画振興部文化スポーツ振興課に置き、必要な事務を行う。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が別に定める。

附則

- 1 この要綱は、平成22年1月27日から施行する。

(別 表)

大分県美術館構想検討委員会名簿

氏 名	職 名 等	分 野
青木 茂	首都大学東京戦略研究センター教授	建 築
板井 ひとみ	(有) 但馬屋老舗常務取締役	経 済
金村 孝之	大分県立芸術緑丘高等学校教諭	教 育
川崎 裕一	大分経済同友会副代表幹事	経 済
酒井 忠康	世田谷美術館館長	美 術
佐藤 寛子	イラストレーター	公 募
澄川 喜一	東京芸術大学名誉教授	美 術
中山 欽吾	大分県立芸術文化短期大学学長	教 育
平岩 禎一郎	大分アジア彫刻展実行委員会委員	経 済
山口 真紀	ヴァイオリン奏者	公 募
山口 正文	美術家	公 募
渡辺 恭英	特定非営利活動法人大分県芸術文化振興会議理事長	美 術

開 催 概 要

	日時・場所	議 題
第1回	平成22年1月27日(水) 12:40～15:00 県立芸術会館講堂	(1) 平成21年度の検討経過について (2) 検討委員会の進め方について (3) 大分県文化振興条例等について (4) 県立芸術会館の現状と課題について (5) 県立美術館の必要性(意義)について (6) 次回の主要な検討項目について
第2回	平成22年3月16日(火) 13:00～16:00 県庁舎新館81会議室	(1) 第1回委員会の確認事項について (2) 県立美術館の機能について (3) 県立美術館のコンセプトについて (4) 次回の主要な検討項目について
第3回	平成22年5月25日(火) 13:00～16:00 県庁舎新館81会議室	(1) 第2回委員会の確認事項について (2) 県立美術館の機能について (3) 県立美術館のコンセプトについて (4) 次回の主要な検討項目について
第4回	平成22年7月27日(火) 13:00～15:30 県庁舎新館51会議室	(1) 第3回委員会の確認事項について (2) 県立美術館の整備について (3) 県立美術館の運営について (4) 次回の主要な検討項目について
第5回	平成22年9月28日(火) 13:00～15:40 県庁舎新館51会議室	(1) 県立美術館基本構想(素案)について
第6回	平成22年11月25日(木) 13:00～14:15 県庁舎新館大会議室	(1) 県立美術館基本構想(答申)について

資 料 編

(その2)

- 1 県 1 施設の 2 2 美術館の概要
- 1 県 1 施設の 2 2 美術館の観覧者数に関するデータ
- 1 県 1 施設の 2 2 美術館のうち観覧者数10万人を超える美術館の特徴等
- 1 県 1 施設の 2 2 美術館のうち指定管理者制度を導入している美術館の状況
- 芸術会館企画展事業費等参考資料
- 芸術会館の収蔵品等
- 「竹」に関するデータ等
- 芸術会館と大分市美術館の比較表
- 設計者選定方法の比較

1 県 1 施設の 2 2 美術館の概要

職員数・管理運営方法

	常勤職員			非常 勤等	職員 数計	管理運営方法	
	事務系	学芸	計			直営	指定管理
大分県立芸術会館	7	8	15	5	20	○	
大分県を除く21施設平均	7	9	16	6	22	13	8
うち建設が平成以降の15施設平均	7	9	16	6	22	8	7

事務系と学芸系を合わせた常勤職員の平均は16人、非常勤職員の平均が6人、合計で22人という職員数となっている。また、管理運営方法については3分の1以上が指定管理制度を導入しており、平成以降に建設された施設については、導入が約半数となっており、直営以外の運営方法が増えている傾向にある。

施設面積(主要施設)

※算出できる施設分(項目毎に施設数は異なる)

(単位:㎡)	建築	延床	展示室	常設	企画	貸室	収蔵庫
大分県立芸術会館	4,345	7,302	1,234	区分なし			685
大分県を除く21施設平均	6,084	11,012	2,975	1,407	1,146	744	1,039
うち建設が平成以降の15施設平均	6,519	11,551	3,046	1,420	1,087	621	1,039

1 県 1 施設平均の展示室面積は2,975㎡、収蔵庫面積は1,039㎡となっている。

施設面積(美術館付帯施設)

※算出できる施設分(項目毎に施設数は異なる)

(単位:㎡)	実習室	アトリエ	講義室	講堂	メディア ホール	ホール	ヒ・テ・オ 室	スタジオ
大分県立芸術会館			185	142				
大分県を除く21施設平均	166	184	141	305	324	462	50	126
うち建設が平成以降の15施設平均	187	245	89	280	246	531		126
施設数	5	6	9	9	3	6	3	1

(単位:㎡)	図書室	書庫室	授乳室	託児 室	コイン ロッカー	ギャラ リー	分館	写真 室
大分県立芸術会館								
大分県を除く21施設平均	143	101	19	29	35	261	750	113
うち建設が平成以降の15施設平均	133	158	17	29	22	261		
施設数	20	2	7	3	8	3	1	1

図書室はほとんどの美術館にある。また、実技もおこなえる実習室及びアトリエが約半数にあり、大規模な会議に対応する講堂や研修会に対応する講義室も半数近く付帯している。さらに、来館者の利便性に配慮したコインロッカーや授乳室も約3分の1の美術館に整備されている。

施設面積(テナント・駐車場)

※算出できる施設分(項目毎に施設数は異なる)

	ショップ (㎡)	レストラン (㎡)	カフェ (㎡)	屋上庭園 (㎡)	駐車場 (台)
大分県立芸術会館		159			200
大分県を除く21施設平均	53	172	119	2,060	189
うち建設が平成以降の15施設平均)	60	180	94	2,060	227
施設数	19	14	11	1	22

ショップはほとんどの美術館に整備されている。レストラン及びカフェについてはどちらかが必ず整備されており、両方ともある美術館も3施設ある。駐車場は全ての美術館にあり、平均で約200台駐車できる広さとなっている。その他、気軽に立ち寄れるフリースペースが充実し、休憩コーナーがある美術館も多く、憩いの場や交流の場としての機能も備えている美術館が多い。

収蔵品(数・評価額)

※評価額については算出できる14施設分

	収蔵品数				評価額(百万円)			
	購入	寄贈	寄託	計	購入	寄贈	寄託	計
大分県立芸術会館	1,939	2,612	343	4,894	3,800	3,600	1,800	9,200
大分県を除く21施設平均	1,832	2,877	468	5,177	3,710	2,581	314	6,605
うち建設が平成以降の15施設平均	1,983	3,140	143	5,266	3,967	2,672	246	6,885

標準的な展示機能(芸館にあるもの○、一部ないもの△)

(機能のある施設数)	空調	調光付 照明	スポットライト	可動式 壁面	ピクチャー レール	低反射 ガラス
大分県立芸術会館	△	△	○		○	
大分県を除く21施設	21	21	20	18	20	5
うち建設が平成以降の15施設	15	15	14	14	14	5

芸術会館では十分と言えない①展示室内を24時間一定の温湿度に管理できる空調システム、②調光機能のついた照明、③可動式壁面(パーテーション)はほとんどの美術館に整備されている。また、新しく建てられた美術館では低反射ガラスを用いたウォールケースの

設置が増えている。

標準的な収蔵機能(芸館にあるもの○)

(機能のある施設数)	免震	空調	紫外線 カット照明	前室 荷解室	ラック
大分県立芸術会館		○			○
大分県を除く21施設	6	21	19	15	21
うち建設が平成以降の15施設	5	15	14	11	15

(機能のある施設数)	消火設備	トラック ヤード	リフト	搬入出路
大分県立芸術会館	○			
大分県を除く21施設	20	19	17	17
うち建設が平成以降の15施設	15	13	13	12

芸術会館には機能がない紫外線カットの照明、十分な広さを確保できる前室や荷解室、十分な広さのトラックヤードと重量物積み降し用リフト及び十分かつ安全な搬出入路の確保についてはほとんどの美術館で整備されている。

教育普及機能(ハード及びソフト)

<ハード> 19美術館

機能	機能を備えた施設を有する県名	内容
アトリエ	宮城県、千葉県、静岡県、徳島県、高知県、 長崎県、宮崎県、沖縄県	ワークショップや実技講座等の 実施
実習室	青森県、福島県、山梨県、三重県、高知県	
ホール	青森県、岩手県、石川県、和歌山県、 高知県	映画・演劇等の上演
講堂	埼玉県、千葉県、山梨県、大分県	講演会、研修会等の実施
講義室	石川県、沖縄県	ビデオ上映会、講座等の実施
展示室	千葉県、福岡県	

○集会室・スタジオ・ギャラリー・キッズルーム・和室・図書室等(各1美術館)

<ソフト> 全美術館で実施

機能	機能を備えた施設を有する県名	内容
鑑賞教室	22美術館	
ワークショップ・講座	13美術館	
ギャラリートーク	千葉県、長野県、静岡県、三重県、広島県	子ども向け、親子向けのギャラリートークを実施
上映会・コンサート	岩手県、徳島県、高知県、福岡県	映画上映会や文学・音楽・舞踊等との交流事業の実施
講演会	栃木県、千葉県、三重県、和歌山県、宮崎県	美術に関する講演会を実施
教員研修	青森県、千葉県、長崎県	教員を対象にした研修会や意見交換会を実施
施設ツアー	岩手県、高知県	館内の案内ツアーやバックヤードツアーを実施
伝統工芸等の授業	広島県、福岡県	日本工芸会会員による出張授業や工房の見学ツアーを実施
音声ガイド	岩手県	ipodを使った常設展案内サービス実施
教材開発	長野県	アートゲーム、製作キット(宅配美術館)などの教材を開発
視覚障がい者対象の 展覧会	広島県	視覚障がいのある児童生徒が直接作品に触れて鑑賞する機会の提供

若手芸術家育成機能(ハード及びソフト)

<ハード> 4美術館

機能	機能を備えた施設を有する県名	内容
ロビーフリースペース	山梨県	作品展示
アトリエ	高知県	期間限定で作品製作の場所として提供
展示室	福岡県	割安で貸出
アトリエ	沖縄県	一般より割安で貸出

＜ソフト＞ 9美術館

機能	機能を備えた施設を有する県名	内容
作品展示	宮城県、福島県、埼玉県、山梨県、岡山県、徳島県、高知県、沖縄県	若手芸術家をひろく紹介する展覧会の開催
基金	山梨県	若手芸術家の作品展示費用について助成を受け、実施
作品販売	高知県	年1回、若手芸術家の作品販売のためのフリーマーケット形式のイベントを開催
博物館実習	長崎県	学芸員資格希望者対象、13人参加

ユニバーサルデザインやエコへの対応例 12美術館

機能	機能を備えた施設を有する県名
エレベーター	福島県、埼玉県、石川県、山梨県、和歌山県、高知県、沖縄県
点字案内	埼玉県、山梨県、静岡県、岡山県、高知県
スロープ	福島県、埼玉県、山梨県、静岡県
トイレ	埼玉県、静岡県、岡山県、沖縄県
エスカレーター	石川県、和歌山県
車いす使用者用駐車場	埼玉県、沖縄県
雨水等利用	青森県、沖縄県
氷蓄熱方式	三重県、沖縄県

○手すり・段差解消機・自動ドア・オストメート・遮光フィルム・太陽光発電(各1美術館)

バーチャル美術館等の発信事例 7美術館

機能	機能を備えた施設を有する県名	内容
収蔵品検索システム	岩手県、三重県、福岡県、大分県	ウェブ上で収蔵品を閲覧できるシステム
ハイビジョン発信	広島県、長崎県	所蔵品や展示会の内容等をハイビジョンで提供
仮想美術館	石川県	全展示室をウェブ上にて画像で紹介

連携の事例

<市町村> 20美術館

項目	機能を備えた施設を有する県名	内容
移動美術館	13美術館	市町村施設で収蔵巡回展示し、鑑賞機会を提供
チラシやマップの作成	青森県、岩手県、長野県、宮崎県	市町村や近隣の施設と連携し、広報事業を実施
収蔵品の貸出	埼玉県、石川県	収蔵品を市町村立美術館へ貸出
学芸員の派遣	高知県	市町村立美術館の要請により、学芸員を派遣
美術展の企画	山梨県	県内美術館等の収蔵品を集め、県立美術館に展示し、各館の活動を紹介

<学校・美術団体> 19美術館

項目	機能を備えた施設を有する県名	内容
出前美術館	15美術館	学校で収蔵品を展示し、鑑賞教育を実施
教職員研修会	青森県、栃木県、埼玉県、千葉県、石川県、山梨県、徳島県、宮崎県	教員のスキルアップや鑑賞教育のための研修会を実施
団体鑑賞受入	栃木県、埼玉県、和歌山県	県有バスでの小中高生の送迎や団体観覧の受入
職場体験・実習	千葉県、三重県、和歌山県	中学生等を対象とした職場体験や実習生の受入
わたしたちの考えた 展覧会	宮崎県	年1回、小中高生と学芸員が協力して展覧会作り上げる事業

<ボランティア・NPO> 17美術館

項目	機能を備えた施設を有する県名	内容
サポーター・ボランティア制度	15美術館	ワークショップ・展覧会補助、作品解説、資料整理等
NPOと連携	山梨県、和歌山県	アートパフォーマンス、アーティストレジデンス等を実施

<住民・観光施設> 7美術館

項 目	機能を備えた施設を有する県名
観光協会等との共同事業や観光PR等	長野県、静岡県、岡山県、高知県
周辺地域と連携し、イベント等の事業実施	和歌山県、高知県、長崎県
ホテルと連携し、イベント実施	千葉県
サポーターイベント実施	千葉県
イブニングライブ	長崎県

<その他> 4美術館

項 目	機能を備えた施設を有する県名	内 容
美術館まちづくり研究会	福島県	学芸員、大学教員、市民、商工会議所職員等が美術館とまちづくりについて話し合い、イベント等を実施
周辺機関との連絡会議	静岡県	県立大学・図書館等と相互協力と施設・人材を活用した地域貢献について検討
鑑賞教材の開発	和歌山県	コレクション鑑賞教材製作普及実行委員会と共同
イベント	長崎県	エントランスでコンサートなど月2、3回実施

1県1施設の22美術館の観覧者数に関するデータ

	施設名	うち建設が平成以降	観覧者数(年度)			備考
			19	20	21	
1	青森県立美術館	○	147,650	181,079	267,278	H18.7開館
2	岩手県立美術館	○	101,714	76,463	71,208	H19企画展(ピカソ展)
3	宮城県美術館	○	146,614	91,606	199,437	H19企画展(日展)
4	福島県立美術館		117,407	86,406	58,320	H19企画展(シャガール展)
5	栃木県立美術館		改修	66,397	57,719	
6	埼玉県立近代美術館	○	163,178	123,842	97,005	H19企画展(横山大観特別展)
7	千葉県立美術館		39,656	28,394	30,880	
8	石川県立美術館		25,044	141,782	68,224	H19.10～20.9休館
9	山梨県立美術館	○	164,244	198,079	185,003	
10	長野県信濃美術館・東山魁夷館	○	161,428	194,597	291,903	
11	静岡県立美術館	○	184,535	190,669	101,792	
12	三重県立美術館	○	146,558	133,394	136,685	
13	和歌山県立近代美術館	○	93,052	46,371	57,009	その他展覧会 (H18・20は6本、H19は9本実施)
14	岡山県立美術館		176,725	168,092	369,023	
15	広島県立美術館	○	273,644	304,908	203,245	
16	徳島県立近代美術館	○	41,679	30,172	42,945	
17	高知県立美術館	○	53,287	42,680	50,886	
18	福岡県立美術館		79,597	63,726	92,834	
19	長崎県美術館	○	341,884	365,226	408,258	
20	大分県立芸術会館		48,048	20,085	18,189	H18企画展(北京故宮博物院展) H19企画展(首藤コレクション展)
21	宮崎県立美術館	○	75,904	138,276	79,912	H18企画展(古代エジプト展、マリーアントワネット展)、H20企画展(ドラえもん展)
22	沖縄県立博物館・美術館	○	32,849	88,869	59,195	H19.11開館

22施設平均等 (設備・内容がない施設は除く)		118,850	126,414	133,952
大分県を除く施設の平均等 (設備・内容がない施設は除く)		122,221	131,478	139,465
うち建設が平成以降(増築も含む)	15	141,881	147,082	150,117

大分県立芸術会館		48,048	20,085	18,189
----------	--	--------	--------	--------

1県1施設の22美術館のうち観覧者数10万人を超える美術館の特徴等

施設名	観覧者数(年度)			館の特徴(集客力のある理由等)
	19	20	21	
青森県立美術館	147,650	181,079	267,278	世界的な版画家棟方志功や、若い世代の圧倒的な指示を集める奈良美智、文学・演劇・映画など多方面で活躍した寺山修司、ウルトラマンや怪獣のデザインを手がけた成田亨など県ゆかりの作家を中心に一作家一部屋のゆったりした展示で作品の魅力を引き出します。大空間「アレコホール」を中心に、常設展、企画展、シアター、コミュニティギャラリー、ワークショップ、キッズルームなどを備え、新しい体験ができます。
埼玉県立近代美術館	163,178	123,842	97,005	さいたま市浦和区の北浦和公園の中にある。館舎は、建築家黒川紀章の設計である。館内では数多くの名作椅子に座ることができ、椅子の美術館としても知られている。モネ、シャガール、ピカソなどの海外の巨匠から日本の現代作家まで、優れた美術作品をコレクションして展示している。
山梨県立美術館	164,244	198,079	185,003	田辺知事と初代館長千澤泰治によりコレクションの中心をバルビゾン派の画家とする方針が定められ、『種まく人』、『落ち穂拾い』、『夏』をはじめとするミレーコレクションやバルビゾン派の画家の作品を収蔵し、『ミレーの美術館』として親しまれている。その他にクールベ、ターナー、シャガール、ヴラマンクらの作品、山梨県出身の画家や山梨ゆかりの画家の作品なども数多く収蔵している。同公園内にはロダン、ヘンリー・ムーアらのヨーロッパ近代彫刻家の作品も設置されている。
長野県信濃美術館・東山魁夷館	161,428	194,597	291,903	善光寺に隣接する城山公園内に開館した県立美術館。立地条件がよく、善光寺の観光客が流れてきているものと推測される。コレクションは、菱田春草や池田満寿夫ら、信州ゆかりの作家による作品と、信州の風景を描いた絵画が中心。
静岡県立美術館	184,535	190,669	101,792	小高い丘の上であり、美術館までの坂道には桜並木が続き、緑豊かな木々の間には国内外12人の著名な作家の彫刻が点在している。落ち着いた雰囲気の本館と明るいドーム天井のあるモダンな別館 ロダン館があり、若者から年配者まで様々な人々に親しまれている。美術館のコレクションとしては、ロダンを主体とする近代彫刻のほか、17世紀以降の日本と西洋の風景画などが充実しており、モネ、ゴーガン、池大雅、歌川広重、横山大観など2,400点あまりを収蔵。
三重県立美術館	146,558	133,394	136,685	2F建てのおしゃれな外観で、敷地も広く、美術館の収蔵作品は5000点を数える。日本の画家たちに大きな影響を与えたシャガール、ルオー、ルドン、ドガ、モネらの作品を収集。中でも、ゴッホ、ピカソらのスペイン絵画は見逃せない。1982年にオープンし、曾我蕭白、藤島武二、宇田荻郎など三重県にゆかりのある作家の作品も多数展示。カフェレストランも併設されており、充実している。周辺に「津信楽公園」(つかいらくこうえん)という大きな公園があり散歩するにはもってこいの公園。
岡山県立美術館	176,725	168,092	369,023	岡山市の中心街、後楽園や岡山城にほど近い場所にある。「岡山県ゆかりの美術資料の収集を行う」という理念のもと、数々の美術品が収集・所蔵されている。特別展として全国美術館の巡回展などが行われ、優れた美術品に触れる場を提供している。また、学芸員や外部講師による講座やワークショップなどを催しており、美術の普及活動にも力を入れている。
広島県立美術館	273,644	304,908	203,245	総床面積は約2万平方メートルで西日本最大級の美術館。平山郁夫など広島にゆかりのある画家の作品を展示している。館内には図書室、ミュージアム・ショップ、レストラン、ティールーム、駐車場等を整備している。縮景園に隣接し、両方の入場券を買くと割引される制度もある。
長崎県美術館	341,884	365,226	408,258	江戸時代外国との接点であった出島の先、長崎の拠点とも言うべき中心地の海岸沿いに建つ。旧美博の美術館機能と、スペイン美術・長崎ゆかりの近代美術の収蔵品を引き継ぐ形で、長崎水辺の森公園に隣接した場所に開館した。建物は「呼吸する美術館」をコンセプトに日本設計と建築家の隈研吾が設計を手がけた。グッドデザイン賞やイタリアのマーブルアーキテクチュラルアワードのほか建築業協会賞、日本建築家協会賞、日本建築学会作品選奨など多数受賞しており、国内外から高い評価を得ている。隔週末の夕方と夜には、エントランスロビーにて活水女子大学音楽学部と長崎大学教育学部の学生・教員・卒業生らによるイブニングライブも行われている。
宮崎県立美術館	75,904	138,276	79,912	図書館や芸術劇場(メディアキット県民文化センター)など県の文化施設が集まる県総合文化公園の敷地内にある。宮崎県出身の画家である瑛九コレクションで有名。

1県1施設の22美術館のうち指定管理者制度を導入している美術館の状況

NO.	施設名	うち建設が平成以降	開設(増築)年月日	指定管理導入年月日	委託先	指定管理者が行う業務内容	管理運営	広報	学術業務
1	岩手県立美術館	○	H13.10.6	H18.4.1	財団法人岩手県文化振興事業団	観覧の許可、取り消し、観覧料の徴収等 施設・設備の維持管理 施設の利用促進(広報、利用者サービスの向上、窓口相談等)	指	指	県
2	山梨県立美術館	○	S53.11.3 (H16.4.3)	H21.4.1	SPS・桔梗屋グループ	施設運営業務:貸館業務。使用料・観覧料の徴収、管理。総合案内、受付・監視。広報、利用促進に関する業務。レストラン・喫茶室の運営等。 施設管理業務:施設・設備の維持管理。警備、清掃業務等。	指	指	県
3	長野県信濃美術館・東山魁夷館	○	S41.10.1 (H2.4.26)	H18.4.1	財団法人長野県文化振興事業団	美術作品の保管、展示、説明に関する業務 施設及び設備の維持管理に関する業務 美術館の利用の許可及び利用料金に関する業務 博物館法第3条第1項第4号から第10号までに掲げる事業に関する業務 上記業務に付帯する業務	指	指	指
4	岡山県立美術館		S63.3.18	H19.4.1	アトラクティブ大永株式会社	総合連絡調整に関する業務 施設及び設備の維持管理に関する業務 その他施設の管理に必要と認められる業務	指	県	県
5	広島県立美術館	○	H8.10.6 全面改築	H20.4.1	株式会社イズミテクノ	施設の利用許可 施設の維持及び修繕 利用料金・入館料の收受 その他施設の管理運営	指	指	県
6	高知県立美術館	○	H5.11.3	H18.4月	財団法人高知文化財団	美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示 美術に関する専門的な調査研究 美術に関する講演会、講習会、研究会等の教育普及活動 美術品等の展示のための県民ギャラリーの提供 音楽、演劇等の鑑賞のためのホールの提供 上記のほか、美術館の設置の目的を達成するために必要な業務	指	指	指
7	長崎県美術館	○	H17.4.23	H16.4.1	財団法人長崎ミュージアム振興財団	美術館の管理運営 美術作品の調査研究、管理・保存修復 教育普及・生涯学習活動 広報マーケティング 常設展、企画展等の企画・展示 施設の貸し出し、ミュージアムショップ、カフェの運営	指	指	指

芸術会館企画展事業費等参考資料

年 度		13	14	15
美術館事業費(千円)		39,849	49,014	45,180
対前年増減額			9,165	△ 3,834
主な企画展		第32回「日展」	大分の美術	生野祥雲齋展
		日本画のまなざし	ナポレオン展	葛飾北斎名品展
		河合誓徳展	福田平八郎作品展	日本のわざと美展
			印象派からマチスまで	神と人とファラオ
		百花乱々展		
利用者数 (人)	主催事業	64,818	88,532	71,751
	共催事業	25,539	55,107	43,766
	貸館	40,777	44,661	72,986
	計	131,134	188,300	188,503

年 度		16	17	18
美術館事業費(千円)		29,740	31,887	28,267
対前年増減額		△ 15,440	2,147	△ 3,620
主な企画展		没後30年福田平八郎展	大分県美術展の歩み	宇治山哲平回顧展
		日本の美と心展	中国歴代王朝展	西太后とラストエンペラー展
		パリと画家たち展	バウハウスデザイン展	ロートレック讃歌
利用者数 (人)	主催事業	35,692	41,208	40,419
	共催事業	52,286	52,447	126,157
	貸館	50,483	50,922	38,360
	計	138,461	144,577	204,936

年 度		19	20	21
美術館事業費(千円)		56,643	22,764	24,683
対前年増減額		28,376	△ 33,879	1,919
主な企画展		ロシア国立東洋美術館所蔵 首藤コレクション展	日名子実三展	大分の竹工芸展
			モーリスドヴラマン展	エカテリーナ2世の晩餐会展
		武田由平展		
		コレクションの精華		
利用者数 (人)	主催事業	48,048	20,085	19,344
	共催事業	134,151	106,377	86,947
	貸館	40,659	42,919	34,514
	計	222,858	169,381	140,805

年 度		22
美術館事業費(千円)		30,297
対前年増減額		5,614
主な企画展		第41回「日展」
		宇治山哲平・糸園和二郎賛歌
利用者数 (人)	主催事業	
	共催事業	
	貸館	
	計	

※予算額には、企画展の他、平常展の事業費を含む。

芸術会館の収蔵品等

芸術会館は、種類別としては表1、主な作家別としては表2のとおり、大分県にゆかりのある作家の作品を中心に4,500点以上の収蔵品をコレクションしており、収蔵品の購入額は38億円を超え、寄贈品等の評価額も36億円に上る。

〔表1〕

種 別	H 20年度末 現在	H 21年度中			H 21年度末 現在	備 考
		購 入	寄 贈	小 計		
日本画	近世	361	0	1	1	平成16～21 年度は購入実 績なし。
	近代	293	0	5	5	
洋 画		468	0	5	5	
素描・下絵		1,730	0	1	1	
版画・写真		771	0	17	17	
彫刻・立体		152	0	0	0	
工 芸		359	0	2	2	
書		62	0	1	1	
典籍		9	0	0	0	
その他資料		346	0	9	9	
合 計		4,551	0	41	41	4,592

〔表2〕

主な作家名	収蔵点数（伝及び合作含む）
田能村竹田	書 画22 資 料35
高橋草坪	書 画16 資 料 4
帆足杏雨	書 画19 資 料 5
福田平八郎	絵 画74 版 画 2 資 料589
高山辰雄	絵 画59 版 画60 資 料140
片多徳郎	絵 画27 資 料 9
糸園和三郎	絵 画25 版 画 1 資 料 14
生野祥雲齋	竹工芸49 資 料 1
宇治山哲平	絵 画94 版 画33 資 料265
佐藤敬	絵 画27 資 料 2

注1:これら以外に寄託品として田能村竹田の重要文化財をはじめ数百点を保管

①日本画(近世)

田能村竹田をはじめ、弟子の高橋草坪ら豊後南画を代表する画人の書画、資料を体系的に収蔵するとともに、歌川派をはじめとする浮世絵版画コレクションも所蔵

②日本画(近代)

大正から昭和の京都日本画壇で活躍した福田平八郎(大分市出身)、日展を舞台に戦後の日本画をリードした高山辰雄(大分市出身)の初期から晩年に至る代表品を収蔵

③洋画

大正洋画壇で注目を浴びた片多徳郎(豊後高田市出身)、パリ美術界で活躍した佐藤敬(大分市出身)、抽象絵画のパイオニア荒井龍男(中津市出身)、詩情溢れる作風の糸園和三郎(中津市出身)、日本的抽象様式を確立した宇治山哲平(日田市出身)らの代表的作品を収蔵

④彫刻

明治末から昭和期の彫刻界をリードした朝倉文夫(豊後大野市出身)、昭和戦前期に新たな彫刻の可能性を追求した日名子実三(臼杵市出身)らの代表作を所蔵するとともに、反芸術運動「ネオ・ダダ」を主導した吉村益信(大分市出身)の前衛的作品等も収蔵

⑤工芸

竹工芸の人間国宝・生野祥雲齋(別府市出身)の代表作に加え、風景文様を巧みに取り込んだ陶芸の河合誓徳(国東市出身)の日展出品作、更に小鹿田焼や日田漆器なども収蔵

⑥大分県関係作家以外の作品

頼山陽の書や葛飾北斎の浮世絵、川合玉堂や前田青邨の日本画、梅原龍三郎、坂本繁二郎の洋画、平櫛田中の木彫等を収蔵する他、W.ターナーやG.ルオーの連作版画、バーナード・リーチが小鹿田で制作した陶器、ロダンやブールデルの彫刻なども所蔵

竹に関するデータ等

1. 大分の竹材・竹工芸品の現況

○大分県は、マダケの生産量が全国一です。また、国の伝統的産業にも指定されている別府竹細工や、全国唯一の竹工芸の人材育成機関が存在するなど、「竹」は大分を代表する地域資源です。

【参考資料】

マダケ生産量

(単位:千束)

年次	1位	2位	3位	4位	5位
18	大分県	山口県	茨城県	滋賀県	福岡県
	114	71	45	25	16
19	大分県	山口県	茨城県	滋賀県	福岡県
	101	52	43	25	15
20	大分県	茨城県	山口県	京都府	福岡県
	97	44	28	22	13

国の伝統的産業の指定

昭和54年 通商産業省(現 経済産業省)から「伝統的工芸品」の指定を受ける。

大分県竹工芸・訓練支援センター

竹工芸の技術者育成、試験研究のために、大分県によって設立された大分県工業試験場別府工芸指導所(1954年大分県別府産業工芸試験所に改称)が前身。

職業能力開発校として、伝統的工芸品としての竹工芸並びに高齢化社会のニーズに対応できる、介護サービスの技術と専門的な知識を保持した人材の養成等を行っている。

2. 県出身の主な竹工芸作家

生野祥雲齋 (1904～1974)	別府市の生まれ。昭和42年、竹工芸で最初の重要無形文化財保持者に認定される。昭和44年、紫綬褒章を受賞。
岩尾光雲齋 (1901～1992)	別府市の生まれ。長年にわたって別府の竹製品業界の振興・発展と後進の指導・育成に尽力し、昭和47年勲六等単光旭日章を受章。
門田 二篁 (1907～1994)	広島県福山市の生まれ。18歳の頃別府市で岩尾光雲齋に師事して花籠を制作し、昭和55年伝統工芸士に認定される。
市原華雲齋 (1916～1995)	杵築市の生まれ。大阪で山口竹代齋に師事し、戦後は地元で制作。昭和55年伝統工芸士に認定される。

3. 芸術会館で開催した竹関係の展覧会（過去3年）

年 度	展 覧 会 名
19年度	平常展Ⅰ 四季の美を描く 開館30周年記念 コレクションの精華 平常展Ⅴ 工芸 その技と美
20年度	平常展Ⅴ 大分の伝統美
21年度	平常展Ⅴ 特集展示:動物や鳥を愛した作家たち 創る、出会う、拓くー竹の世界

4. 芸術会館所蔵の主な竹に関する作品


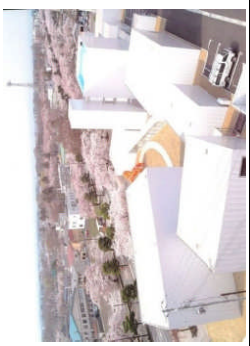


分 野	作品数	主な収蔵品等	
		作家名	作 品 名
南 画	24	田能村竹田	「筍蕈図」、「梅花宿鳥図」
		田能村直入	「竹溪幽客図」、「十長生図」
日本画	4	福田平八郎	「竹」
竹工芸	233	生野祥雲斎	「時代竹編盛籃 心華賦」 「ホールのための置物 梟将」、「陽炎」
		初代田辺竹雲斎	「古矢竹鎧綴花籠 弥生」
		飯塚琅玕斎	「果籃 待虎」
その他	2	鈴木春信(浮世絵)、櫛原長甫(漆芸)	
小 計	263		

芸術会館と大分市美術館の比較表

比較項目	芸術会館	大分市美術館																																																																																																																																																																	
運営方針	<ol style="list-style-type: none"> 1 優れた芸術作品を紹介する。 優れた芸術作品を紹介し、県民に鑑賞の場を提供することによって豊かな県民性を培う。 2 総合文化施設として、芸術・文化の創造活動を促す。 鑑賞者が創造活動に参加できるようにするとともに、芸術・文化の総合的な深化を図る。 3 自主的な学習の場を提供する。 芸術・文化活動を実践する人々が、自ら学習することのできる環境整備に努める。 4 調査・研究・情報提供活動を行う。 芸術・文化活動の基礎となる調査・研究活動を行い、広く県民に情報を提供する。 5 コミュニケーションの場とする。 芸術・文化活動を通じて、県民の交流を深め、豊かな人間関係を作るコミュニケーションの場とする。 	<p>大分市美術館は、緑豊かな上野丘公園内に位置し、「たのしんで・みて・まなぶ」美術館として、だれもが気軽に美術を楽しめる場と機会を提供する。</p> <p>年間を通じて所蔵の美術品が鑑賞できる常設展やさまざまな優れた分野の美術を紹介する特別展の開催、各種講座・講演会の開催など、子どもから大人までが生涯学習の施設として「幅広く楽しめる」美術館の運営をめざす。</p> <p>特色ある地域の美術文化情報を広く発信するとともに、開かれた美術館として市民との協働による運営を推進する。</p> <p>収集保存活動をはじめとした、調査研究活動、展示活動、教育普及活動、広報活動という5つの活動を通じて、幅広く芸術文化の振興につとめる。</p>																																																																																																																																																																	
資料収集方針	<ol style="list-style-type: none"> 1 近世以降現代に至る間の大分県出身、ないしは大分県に深い著名作家の秀作、並びに資料的価値のあるもの。 2 近世以降現代に至る間の我が国美術史上、重要な役割を果たしていると判断される作家の秀作、並びに資料的価値のあるもの、および一定の重要な美術事象を示す資料。 3 美術史上、重要な役割を果たしていると判断される国外の作家の作品。 4 中世以前における大分県に關係した美術作品並びに資料的価値のあるもの。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 豊後南画をはじめ、大分市にゆかりのある作家の優れた作品 2 美術史的展望に立ち近・現代を中心とした芸術的に価値のある内外の作品 3 将来的方向として重要視される環太平洋地域の美術についての作品 4 歴史的文化的遺産として貴重な美術資料 																																																																																																																																																																	
主な収蔵品	<ul style="list-style-type: none"> ・田能村竹田をはじめとする近世・近代初期の書画 ・福田平八郎・高山辰雄を中心とする近・現代の日本画 ・竹工芸を中心とする染織、陶芸漆芸などの工芸 ・県出身作家をはじめとする近現代の洋画 ・その他、浮世絵、近現代版画、立体・彫刻、外国版画等 <p style="text-align: center;">ジャンル別点数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">平成20年度現在</th> <th colspan="3">平成21年度</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>購入</th> <th>寄贈</th> <th>小計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">日本画</td> <td>近世</td> <td>361</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>362</td> </tr> <tr> <td>近代</td> <td>293</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>298</td> </tr> <tr> <td>洋画</td> <td></td> <td>468</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>473</td> </tr> <tr> <td>素描・下絵</td> <td></td> <td>1,730</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1,731</td> </tr> <tr> <td>版画・写真</td> <td></td> <td>771</td> <td>0</td> <td>17</td> <td>788</td> </tr> <tr> <td>彫刻・立体</td> <td></td> <td>152</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>152</td> </tr> <tr> <td>工芸</td> <td></td> <td>359</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>361</td> </tr> <tr> <td>書</td> <td></td> <td>62</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>典籍</td> <td></td> <td>9</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>書簡その他資料</td> <td></td> <td>346</td> <td>0</td> <td>9</td> <td>355</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,551</td> <td>0</td> <td>41</td> <td>41</td> <td>4,592</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">平成22年3月31日現在 (注)平成16～21年度は購入なし。</p>	種別	平成20年度現在	平成21年度			合計	購入	寄贈	小計	日本画	近世	361	0	1	362	近代	293	0	5	298	洋画		468	0	5	473	素描・下絵		1,730	0	1	1,731	版画・写真		771	0	17	788	彫刻・立体		152	0	0	152	工芸		359	0	2	361	書		62	0	1	63	典籍		9	0	0	9	書簡その他資料		346	0	9	355	合計	4,551	0	41	41	4,592	<ul style="list-style-type: none"> ・田能村竹田をはじめとする豊後南画作品 ・福田平八郎・高山辰雄を中心とする近・現代の日本画 ・佐藤敬らを中心とする近・現代の洋画作品 ・生野祥雲齋を中心とする竹工芸作品 ・その他、国内外の版画作品及び現代美術作品等 <p style="text-align: center;">ジャンル別点数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">平成20年度現在</th> <th colspan="3">平成21年度</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>購入</th> <th>寄贈</th> <th>小計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本画</td> <td>457</td> <td>15</td> <td>6</td> <td>21</td> <td>478</td> </tr> <tr> <td>洋画</td> <td>313</td> <td>9</td> <td>34</td> <td>43</td> <td>356</td> </tr> <tr> <td>彫刻</td> <td>149</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>工芸</td> <td>63</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>11</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>書</td> <td>55</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>写真</td> <td>481</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>481</td> </tr> <tr> <td>版画</td> <td>764</td> <td>9</td> <td>0</td> <td>9</td> <td>773</td> </tr> <tr> <td>水彩</td> <td>9</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>素描</td> <td>20</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>デザイン</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>資料</td> <td>11</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>45</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,367</td> <td>41</td> <td>47</td> <td>88</td> <td>2,455</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">平成22年3月31日現在</p>	種別	平成20年度現在	平成21年度			合計	購入	寄贈	小計	日本画	457	15	6	21	478	洋画	313	9	34	43	356	彫刻	149	1	0	1	150	工芸	63	5	6	11	74	書	55	0	0	0	55	写真	481	0	0	0	481	版画	764	9	0	9	773	水彩	9	0	0	0	9	素描	20	1	0	1	21	デザイン	0	0	0	0	0	資料	11	1	1	2	13	その他	45	0	0	0	45	合計	2,367	41	47	88	2,455
種別	平成20年度現在			平成21年度				合計																																																																																																																																																											
		購入	寄贈	小計																																																																																																																																																															
日本画	近世	361	0	1	362																																																																																																																																																														
	近代	293	0	5	298																																																																																																																																																														
洋画		468	0	5	473																																																																																																																																																														
素描・下絵		1,730	0	1	1,731																																																																																																																																																														
版画・写真		771	0	17	788																																																																																																																																																														
彫刻・立体		152	0	0	152																																																																																																																																																														
工芸		359	0	2	361																																																																																																																																																														
書		62	0	1	63																																																																																																																																																														
典籍		9	0	0	9																																																																																																																																																														
書簡その他資料		346	0	9	355																																																																																																																																																														
合計	4,551	0	41	41	4,592																																																																																																																																																														
種別	平成20年度現在	平成21年度			合計																																																																																																																																																														
		購入	寄贈	小計																																																																																																																																																															
日本画	457	15	6	21	478																																																																																																																																																														
洋画	313	9	34	43	356																																																																																																																																																														
彫刻	149	1	0	1	150																																																																																																																																																														
工芸	63	5	6	11	74																																																																																																																																																														
書	55	0	0	0	55																																																																																																																																																														
写真	481	0	0	0	481																																																																																																																																																														
版画	764	9	0	9	773																																																																																																																																																														
水彩	9	0	0	0	9																																																																																																																																																														
素描	20	1	0	1	21																																																																																																																																																														
デザイン	0	0	0	0	0																																																																																																																																																														
資料	11	1	1	2	13																																																																																																																																																														
その他	45	0	0	0	45																																																																																																																																																														
合計	2,367	41	47	88	2,455																																																																																																																																																														
主な作家別	収蔵点数 (伝及び合作含む)	収蔵点数 (伝及び合作含む)																																																																																																																																																																	
田能村竹田	書画22 資料35	書画54 資料0																																																																																																																																																																	
高橋草坪	書画16 資料4	書画3 資料0																																																																																																																																																																	
帆足杏雨	書画19 資料5	書画31 資料0																																																																																																																																																																	
福田平八郎	絵画74 版画2 資料589	絵画38 版画0 資料0																																																																																																																																																																	
高山辰雄	絵画59 版画60 資料140	絵画50 版画89 資料0																																																																																																																																																																	
片多徳郎	絵画27 資料9	絵画4 資料0																																																																																																																																																																	
糸園和三郎	絵画25 版画1 資料14	絵画6 版画0 資料0																																																																																																																																																																	
生野祥雲齋	竹工芸49 資料1	竹工芸32 資料0																																																																																																																																																																	
宇治山哲平	絵画94 版画33 資料265	絵画8 版画0 資料0																																																																																																																																																																	
佐藤敬	絵画27 資料2	絵画61 資料0																																																																																																																																																																	
美術品購入総額	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">3,832,000,000円</div> (注)平成16～21年度は購入実績なし	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">4,504,163,000円</div>																																																																																																																																																																	

設計者選定方法の比較

※どちらの場合にせよ、募集要綱の作り込み次第で、相互の利点を可能な限り取り取り込むことができる。

種別	施設外観	施設名称	設計者	審査委員長	作品提出件数	募集～決定	構造・規模	延べ床面積	工事費 (本体)	それぞれの特徴	
										選定方法	特徴(長所、短所)
プロポーザル方式		長崎県立美術館 (公募型2段階方式) H17(2005)開館	日本設計 (主) 隈 研吾 (協力)	松藤 悟司	一次 26 二次 7	4ヶ月	RC造+SBC造 (一部S造) 地上3階	10,092	63億	<ul style="list-style-type: none"> ○コンペに比べると発注者が詳細な設計条件を設定しなくて良い。 ○設計者選定後の設計作業に利用者の意見を取り入れる自由度が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○設計体制、実施方法、これまでの実績、プロジェクトに対する考え方などの技術提案書を求め「設計者」を選ぶ。
		十和田市現代美術館 (指名型) H20(2008)開館	西沢 立衛 北原 啓司		5	3ヶ月	S造 地上2階	2,078	8億円	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な設計提案は求めず、組織と人を選ぶことを目的とする。技術提案書作成に必要な時間と費用が軽減される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実績や人員の多い大手組織事務所が比較的に有利。(中小設計事務所には多少不利) ○主に書面による技術提案書の評価であるためデザイン能力の評価がしにくい。
コンペ方式		青森県立美術館 H18(2006)開館	青木 淳	伊東 豊雄	393	7ヶ月	RC造+S造 地上5階 地下1階	22,682	110億	<ul style="list-style-type: none"> ○「設計案」を選び、その提案者を設計者に指名。設計条件などをあらかじめ発注者が提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な設計提案が提出されるので、設計者のデザイン能力を評価できる。 ○中小設計事務所から大手事務所まで幅広い設計者の参加機会が得られる。
		金沢21世紀美術館 (公募型2段階方式) H16(2004)開館	妹島 和世 西沢 立衛	池原義郎	一次 41 二次 6	5ヶ月	RC造+S造 地上2階 地下2階	17,093	113億	<ul style="list-style-type: none"> ○発注者が利用者の意見を設計条件に取り入れるなど、コンペの事前準備に時間が必要。(面積や所要室などの細かい設計条件の設定が必要) 	<ul style="list-style-type: none"> ○発注者が利用者の意見を設計条件に取り入れるなど、コンペの事前準備に時間が必要。(面積や所要室などの細かい設計条件の設定が必要)